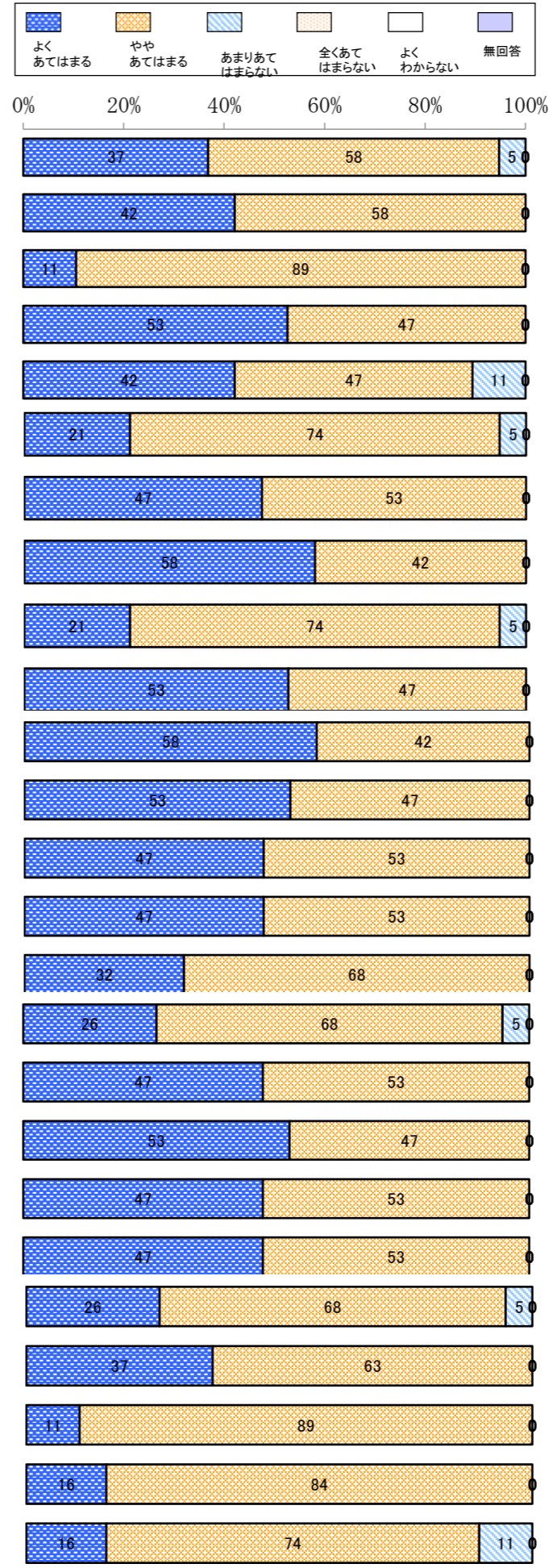


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
			A	B	C	D	よく分からない	無答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	48	40	6	1	5	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	63	27	7	2	1	0
	3	基本的生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	51	38	10	0	0	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	41	44	12	1	2	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	59	31	7	2	2	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	54	36	7	1	1	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	56	37	6	1	0	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	67	19	11	3	1	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	50	37	7	4	2	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	52	37	10	1	1	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	62	27	8	2	1	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性を高める教育を行っている。	35	47	12	3	3	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	53	25	13	4	4	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	76	21	2	1	0	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	65	26	6	2	1	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	51	28	5	0	17	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	57	38	5	0	0	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	50	31	12	4	3	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	48	27	16	6	4	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	50	34	9	0	7	0
各学校の特色ある教育	21	主体的に学ぶ態度	児童は、どのように学習を進めていくかなど、見通しをもって学習している。	48	37	11	4	1	0
	22	調べ学習の充実	児童は、調べ学習を進んで行き、自分の考えを発表する活動をしている。	42	37	19	2	1	0
	23	聞く態度	児童は、人の話を最後までよく聞いている。	57	37	5	2	0	0
	24	誰とでも協力できる心情	児童は、友達の気持ちを考えて行動している。	45	44	8	2	1	0
	25	前向きに生活する態度	児童は、失敗をおそれず、いろいろなことに挑戦している。	47	28	9	2	0	14



学校の自己評価（考察）	
AB合わせた前向きな評価が、児童で6ポイント保護者も3ポイント上がっている。学校の教育目標が浸透していることが分かる。	
学校が楽しいかという質問に対して児童は5ポイント減ってしまった。登校しぶり気味の児童も少しずつ増えてきている。今後はより魅力ある学校になるように、生活面、学習面、行事等も含めて見直していきたい。	
挨拶や返事に対する回答である。児童、保護者ともにほぼ変わらない。挨拶は定着してきているが、学年が上がるとしっかりと返事ができなくなる児童が多い。挨拶返事ともに90%を目指していきたい。	
先生から褒められたり励まされたりしているかという質問。児童で11ポイントも上がっている。先生たちの声かけが児童にしっかりと届いていることが分かる。	
学校は元気で楽しく過ごせるかという質問。90%の児童は肯定的に回答している。防災教育徹底して行っているが、今後は児童一人ひとりが主体的に取り組めるように指導を継続していきたい。	
児童のABの割合が高いことは昨年度同様変わらない。保護者のAの割合が10ポイントも高くなり、よく分からないが半数に減った。土曜日は授業を公開し、その様子を見てもらっていることが分かる。	
保護者のCが5ポイント、よく分からないが3ポイント減り、Aが9ポイント増えた。授業研究を行い、教師の指導力が高まったことで分かりやすい授業が行われていることの結果が表れている。	
生活指導から出された「二階スタンダード」に各学年の学習の目安時間が示されたり、低学年から自主学習に取り組んだりしていることで、児童のAポイントが高まり、教員もよくあてはまるが27ポイント高まった。	
保護者のAの割合が9ポイント増えるなど、学校では、それぞれの学級でICTの効果的な方法を考えながら使用しているが、タブレットパソコンの不具合がでることもあり、児童のAポイントの割合が7減った。	
児童保護者共にABの割合が大きく上回った。読書旬間にかかわらず、土曜授業公開日に保護者にも本の貸し出しを行ったり、掲示物で読書の取り組みを示したりしたことで効果が表れている。	
相手を大切にしているかという質問した児童が約90%と昨年度と数値はほとんど変わらない。これからも100%を目指し、心の教育を実践していく。	
肯定的な回答が、児童、保護者共に昨年度より多くなっている。これからも道徳授業地区公開講座を保護者や地域への道徳教育の発信の場として位置づけていく。	
信頼できる先生はいるかという問いに対して、児童の肯定的な回答が昨年度と比べて増えてきている。しかし、いないと答えている児童が17%いるので、今後も信頼関係を構築することに努めていきたい。	
学校行事が楽しいかという設問に対して、児童の回答が10ポイント上がった。コロナ禍による活動の制限がなくなり、以前のような活動に近付いたことが高評価につながったと考えられる。	
係や当番活動をきちんとやっているかという問いに対して、昨年度同様、責任をもって取り組んでいることが分かる。	
児童のAのポイントが11%向上したことから、学校と保護者とが、スクリーンを通して情報授受をしていることが周知されてきたことが分かる。保護者のABポイント合計は94%にも上り、今後も引き続き、継続していく。	
児童のABポイントは若干向上。保護者は、Aで7%の向上とともに、CDの若干の減少がみられた。今後も保護者からの相談を真摯に受け止め、丁寧に対応を続ける。	
保護者のABポイントの合計が96%ととても高い。一方児童のCDのポイントが16パーセントと比較的高い。このことから、保護者は参加しているという意識が高いものの、児童はもっと来てほしいと思っているのかもしれない。	
保護者のAのポイントが11%向上したものの、ABを合わせた場合は、昨年度と同じ。教員のAが28%も向上。コロナ禍明け、教員がPTAなどの行事への参加が増加したことをより好意的に受け止めてくださったことが分かる。	
全体的に昨年度と変わらない。保護者の「よくわからない」が30%と高い。このことから、お寄せいただいた意見等について、翌年の学校運営にどう生かされいくかの伝え方の工夫をしていく。	
昨年度に比べ、肯定的な評価が児童は6ポイント、保護者は2ポイント上がっている。引き続き単元の見直しもつたり、行事の目標を立てたりなどの指導を行い、主体的に学ぶ態度を育てていく。	
昨年度に比べ児童の肯定的な回答がわずかに上がっている。児童の思いや興味に寄り添い、より意欲的に調べ学習に取り組むことができるようにしていく。	
肯定的な回答が、児童・保護者共に7ポイント上がっている。授業でもペアやグループ、全体で話し合う活動を取り入れ、対話を大切にした指導を続けてきたことが結果に表れているように感じる。	
若干肯定的な評価が上がっている。引き続き、各教科や道徳の授業、たてわり班活動などの全教育活動と関連させて協力することや相手の気持ちを考えて行動することの大切さを指導していく。	
こちらの項目も、児童が5ポイント、保護者が7ポイント上がっている。引き続き、結果だけではなく、児童のがんばっている過程も評価することを大切にし、自己肯定感を高めていく。	

無効票を除く (%)